

線の西条駅前を中心とした西条駅前土地区画整理事業に伴うもので、今回木簡が出土した第一次調査A調査区は、西国街道から見るとかなり奥まっております、町屋跡の推定範囲からは外れている。実際、掘立柱建物や池などが見つかっているが、遺構の数も少なく、江戸時代の遺構・遺物はほとんど出土していない。

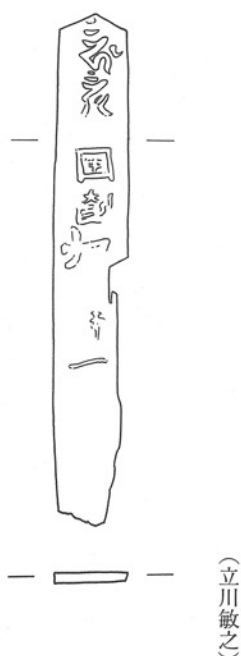
木簡は、井戸（SE）から一点のみ出土した。この井戸は、上層から出土した遺物から、中世には埋まったものと考えられる。

8 木簡の釈文・内容

- (1)  (梵字) (289) × 29 × 6 0.19

上端は圭頭、下部は欠損している。内容は、文頭に不動明王を表わす梵字の種子「カーン」と不明の梵字を配し、以下「国」がかるうじて読めるが、判読困難な文字が続く。

長期間風雨にさらされていたためか風食が著しく、墨の痕跡はほとんどない状態で、文字の部分が浮き上がって見える。



広島・下上戸遺跡 しもつわど

- 1 所在地 広島県東広島市西条町御蘭宇・助美
- 2 調査期間 一九九九年（平11）二月
- 3 発掘機関 (財)東広島市教育文化振興事業団
- 4 調査担当者 吉野健志
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代中期後半、平安時代末～鎌倉時代、室町時代後半～戦国時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(海田市・竹原)

東広島市は、広島県南部のほぼ中央、標高二〇〇～三〇〇mの賀茂台地上に位置しており、その中にある西条盆地は安芸地域最大の平地部を持つ。下上戸遺跡は、西条盆地中央に島状に点在する低丘陵の南側裾部に位置し、店舗建設のため、遺跡の一部三六〇㎡を調査した。遺跡は弥生時代、鎌倉時代、室

町・戦国時代の複合遺跡で、中心は室町・戦国時代の集落である。室町・戦国時代の遺構は、五間×二間以上の総柱建物及びそれに付属すると考えられる一間×一間の掘立柱建物・水溜め状遺構・素掘りの井戸などである。遺物は量的には少ないが、土師質土器のほか、水溜め状遺構から漆器椀や銅製の箆の引手が出土している。木簡は素掘りの井戸から二点が出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 〔梵字〕 長祿三年
□ 南無水神天王 □ □ (286)×31×3.5 061

(2) 〔梵字〕
・ □ 急々如律令 〔 (梵字) 〕 (201)×33×3 061

(1)は、ほぼ完形で上部は圭頭、下部は尖らせてある。井戸からの出土と「南無水神天王」とあることから、井戸に関わる祭祀に伴うものと思われる。墨痕は現状ではまったく確認できないが、風食の結果、文字の痕跡が浮き上がっており、ある程度の判読は可能である。

製作年代は、木簡にあるとおり長祿三年（一四五九）と思われるが、これが井戸の築造年代である可能性もある。先述のとおり、風食が見られることから、井戸の周辺に一定期間置かれてあったものであろう。遺構内での出土位置は底面から約1mであった。

(2)は、下部を斜めに削ってやや尖らせている。上部は折損しており、もとの形状は不明であるが、大きさなどは(1)とよく似ている。表側には梵字のほかに「急々如律令」の文字が読め、何らかの祭祀に関連したものであると思われる。遺構内での出土位置は、ほぼ底面であった。

（吉野健志）